

AWAJI JC
Public relations
magazine

ひとが継ぐ、ひとつに紡ぐ

Hitotsugi



一般社団法人淡路青年会議所
2020年度広報誌

VOL.01

対談

今こそ一丸となり

淡路島の魅力の発掘を。

藤川 龍介

一般社団法人 淡路青年会議所
第五十八代理事長

西村 康稔

経済再生担当大臣
全世代型社会保障改革担当大臣

特集対談
～淡路の魅力発信～

西村康稔×藤川龍介

会員拡大委員長
空山委員長から入会のご案内

淡路JCの魅力を
現役メンバーにインタビュー！

淡路青年会議所
新体制がスタート

2020年度新委員長たちの意気込み

事業例会報告

家族忘年会

新年会

12月例会

1月例会



第五十八代理事長

藤川 龍介

理事長雑感

理事長スローガン

前へ

～共に喜び、共に進め～

2020年度一般社団法人淡路青年会議所の理事長を務めます藤川龍介でございます。

平素より皆様方におかれましては、一般社団法人淡路青年会議所の活動に對しまして深いご理解と多大なるご協力を賜っておりますこと厚く御礼申し上げます。

淡路青年会議所は1962年（昭和37年）、淡路島内が一市十町の時代から「現代の淡路島、将来の淡路島の開発、発展に貢献する」という趣旨のもと、「淡路はひとつ」を基本理念として設立された青年会議所です。

昨年、アジア初となるラグビーワールドカップが大阪で開催され、日本代表の活躍もあり日本各地で大きな盛り上がりを見せました。そして、今年の夏には56年ぶりの夏季オリンピック日本開催となる東京オリンピック・パラリンピックと、国際的に大きなイベントが立て続けに開催されることになって、日本には更に注目が集まっています。さらに関西においては2025年大阪万博の開催、IR構想と、交流人口の増加にともなう計画が立てられ、関西圏であるこの淡路島においても、その影響を受けることは明らかです。そんな中で、淡路青年会議所としては、発信力の強化と、何よりも淡路島の魅力をさらに底上げし、環境を整備することが長期的な目標において最も重要であると考へております。食・文化・人の魅力、淡路島には他の地域と比較しても充分すぎる程にそれぞれの魅力が揃っています。この魅力をさらに向上させ、環境を整え、交流人口をひとりでも多く増やすことで淡路島の良さに気づいてもらうことが今後の淡路島の発展を向う大きな指標のひとつであり、明るい豊かな淡路島を実現する一助となると信じて邁進してまいります。

さて、1月の活動を振り返ってみますと元日には延原委員長率いる淡路の魅力発信委員会により2020年度ホームページが新たに立ち上がりました。対内外のより多くの皆様に見ていただきたいと思っておりますので、宜しくお願いたします。続いて植野室長率いるひとつの淡路推進室設置のものと伊井諾神宮において1月例会を開催させていただきました。メンバーの皆さまへ向け、年頭挨拶をさせていただきます。1年の成功祈願として正式参拝を執り行っていました。

1月15日には、濱委員長率いる会員交流委員会設置のものと、2020年度淡路青年会議所として初の対外事業となる新年会を、淡路夢泉景にて開催させていただきました。多くのご来賓、他LOMのメンバー、そして特別会員の皆さまに多数ご出席いただく中で、今年度のスローガン「前へ」共に学び、共に進め」と共に、その想いと方向性を述べさせていただきます。昨年の感謝をお伝えさせていただきました。また、京都会議LOMナイトでは空山委員長率いる会員拡大委員会、合同委員長会議LOMナイトでは大坂委員長率いる会員研修委員会に設置いただき、近畿地区協議会、兵庫ブロック協議会へ出向いただいておりますメンバーへの激励と、メンバーとの絆を深めることができました。その他、他団体主催の新年互例会や会議にも参加させていただきました機会をいただいたことで、今年度理事長としての責任を強く感じる機会となりました。

2020年度のわんぱく相撲・メイン事業など各事業も少しずつではありますが形を表し始めております。1年は長いように感じても、すぐに過ぎてしまいます。これらの事業を行うにあたってはスタートから全力をもってあたること、素晴らしい事業に出来ればと考えております。立春を過ぎ、暖冬で温かかった気温も冬らしい寒さになり、体調管理にはより一層の注意が求められる季節になりました。また、先日から世界的にも流行の兆しを見せるコロナウイルスの影響もあり、さらに油断できない日々が続いております。皆様におかれましても体調管理には充分お気お付けいただきますことお願い申し上げます。理事長雑感とさせていただきます。

2020年度のわんぱく相撲・メイン事業など各事業も少しずつではありますが形を表し始めております。1年は長いように感じても、すぐに過ぎてしまいます。これらの事業を行うにあたってはスタートから全力をもってあたること、素晴らしい事業に出来ればと考えております。立春を過ぎ、暖冬で温かかった気温も冬らしい寒さになり、体調管理にはより一層の注意が求められる季節になりました。また、先日から世界的にも流行の兆しを見せるコロナウイルスの影響もあり、さらに油断できない日々が続いております。皆様におかれましても体調管理には充分お気お付けいただきますことお願い申し上げます。理事長雑感とさせていただきます。

一般社団法人淡路青年会議所 2020年度理事役員 紹介



理事長 藤川 龍介



直前理事長 藤井 宏昌



特別顧問 時枝 弘記



監事 岸本 篤人



監事 竹田 良平



副理事長 中川 貴弘



副理事長 笠屋 千賀



副理事長 波戸 大樹



副理事長 三浦 義崇



専務 伊山 真司



公室長 小川 優一



室長 植野 泰幸



委員長 木戸 隆一郎



委員長 延原 直樹



委員長 空山 智郎



委員長 大坂 章仁



委員長 濱 健一



出向理事 川越 勇輔



出向理事 横山 泰明

組織図



2020年度 新委員長の意気込み



理事長公室 公室長 小川 優一

委員会スローガン：ONE TEAM! ～互助の精神を以って～

本年度、理事長公室公室長を仰せつかりました小川優一です。
当委員会の役割といたしましては、会員名簿の作成、名刺の作成、7月例会及び12月例会の設営及び運営となっております。
私たち理事長公室は、この組織を強固な『ONE TEAM』と作り上げていくために、全ての会議運営及び例会等に全力で取り組んで参ります。
どうぞ1年間宜しくお願い致します。

ひとつの淡路推進室 室長 植野 泰幸

委員会スローガン：未来へ繋ぐ。

本年度、ひとつあわじ推進室室長を仰せつかりました植野泰幸です。
当委員会の役割と致しましては、1月例会とひとつのあわじ推進事業の企画運営となっております。先輩諸兄より受け継いできた「あわじはひとつ」の理念のもと、若い私達ができることを考え一年間取り組んで参ります。
どうぞ一年間よろしくお願い致します。



淡路の魅力向上委員会 委員長 木戸 隆一郎

委員会スローガン：踏み出そう。新たな淡路島の創造へ。

本年度、淡路の魅力向上委員会、委員長の役を仰せつかりました木戸隆一郎です。
当委員会では2月例会と淡路の魅力向上事業の企画、設営及び運営が主な役割となっております。高いポテンシャルを持つ淡路島の食や文化、地域住民などの魅力を磨き、新たな魅力の創造へと繋げてまいりたいと思っております。一年、皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

淡路の魅力発信委員会 委員長 延原 直樹

委員会スローガン：承前啓後～魅力をちからに前線を切拓け～

本年度、淡路の魅力発信委員会として委員長を拝命いたしました。延原直樹です。広報誌をはじめ、YouTubeやSNS、ホームページなどで淡路の魅力を発信するとともに、事業としてはわんぱく相撲の開催を担っております。淡路島には魅力が溢れています。先輩諸兄からの想いを引き継ぎ、少しでも多くの方に淡路の魅力を知っていただくために発信していきたいと思っております。
一年間、どうぞよろしくお願い致します。



会員拡大委員会 委員長 空山 智郎

委員会スローガン：イチガン～行動こそ成果をつくる～

本年度会員拡大委員会の委員長を仰せつかりました空山智郎です。当委員会の役割といたしまして3月・9月例会の設営及び運営、会員拡大事業の企画・設営及び運営となっております。
私たち会員拡大委員会は「人とのつながり」を大切にし、率先して会員拡大を行います。
一年間、私自身も自己成長できるよう、精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

会員研修委員会 委員長 大坂 章仁

委員会スローガン：可能性を、掴み取る！

当委員会では、4月例会、8月例会の設営・運営、兵庫ブロック協議会LOM役員懇談会の設営・運営のほか、経済人としての考え方や行動、能力を研鑽し、人格の陶冶に資することを旨とした研修事業を担っております。
メンバーひとり一人が、それぞれの可能性を掴み取ることができる企画、運営を行いたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



会員交流委員会 委員長 濱 健一

委員会スローガン：深める親睦、そして共に成長する

本年度、会員交流委員会の委員長を仰せつかりました、濱 健一です。当委員会の役割といたしまして新年会の企画・設営、淡路島まつりおどり大会への参加、並びに5月・11月例会の企画・運営などの会員の交流事業を担っております。
交流事業を通して、経験豊富なメンバーと年齢、経験の浅いメンバーとの親睦を深め、そして共に成長していこうと考えております。
一年間、精一杯邁進していく所存ですので宜しくお願い致します。

2019.12 ~ 2020.01 実施事業・例会・活動報告

2019
12/11

12月例会報告～未来への流儀～

淡路青年会議所では、40歳の年齢をもって卒業年度を迎えます。この例会はその卒業生たちをお見送りし、残るメンバーたちに意志を承継するための例会として設営されます。また、理事長から次年度理事長予定者へバッヂの授与も執り行われます。

去る12月11日(水)、夢海遊 淡路島にて「12月例会～未来につながる流儀～」を開催いたしました。

卒業生の皆様には事前に撮影にご協力いただき、想いを動画の中で語っていただくと共に、リアルタイムで質問形式にして、JICとしての流儀をインタビュ形式のスピーチにてお話いただきました。

JIC中に培った知識、経験などを現役メンバーや、後世のメンバーたちに引き継げる素晴らしいスピーチを聞くことができました。共に活動が続けてきたメンバーたちに見送

られながら卒業されゆく54年会の皆様の後ろ姿が目につきました。と思います。

最後になりましたが、年末のご多用の中、参加していただきました卒業生の皆様、メンバーの皆様、改めて感謝申し上げます。

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

2019年度
魅力溢れる会員委員会
委員長 延原直樹



2019
12/14

家族忘年会

1年間活動が続けてきたメンバーたちが、それを陰ながら支えてくれた家族に感謝を表現するのが家族忘年会です。

去る12月14日(土)、ワールドパークレスト ランイル・マールにて家族忘年会を開催いたしました。

当日はお休みの中、多くのメンバーをはじめ、ご家族の皆様にご参加頂くことができました。ブリの解体ショーや、ラクレットチーズ、原木生ハムなどもご用意させていただきました。恒例となりました抽選会なども大いに盛り上がりました。また料理だけでなくワールドパークONOKORO様には多大なるご協力をいただき、終始笑顔が溢れ、楽しんでいたのだと思います。当委員

会としても非常にやりがいを感じる事ができたひと時となりました。また、日ごろのJIC活動しているメンバーから、家族へ感謝の気持ちを表現していただき、奥様方やお子様にもゆつくりおくつろぎいただけたのではないかと思います。

恒例となりました今年度理事長から、次年度理事長へのバッヂ伝承も執り行い、1年間の活動を無事家族への感謝で締めくくることができた会となりました。

皆様、1年間本当にお疲れ様でした。最後にりましたが、ご参加、ご協力下さいました皆様、ほんとうにありがとうございます。

2019年度
魅力溢れる会員委員会
委員長 延原直樹



2020
1/4

厳島神社参拝

新年に一年間の青年会議所としての発展を祈願し、厳島神社へ参拝いたします。新年祈願の後には、前年度理事の最後の理事会と、新年度理事の最初の理事会が行われます。

去る1月4日、藤川新理事長の新体制のもと、新理事メンバー一同が厳島神社にて新年祈願をとり行わせていただきました。

新年祈願を終え、理事メンバー一同の引き締まる思いで新たに発信することができました。

この1年間全力で邁進して参りますので、宜しくお願い致します。

理事長 小川優一
公室長 小川優一



2020
1/8

1月例会報告～志を以て実と成す～

年度最初の例会は、昨年度に活躍したメンバーや委員会に対して褒賞授与が行われます。本年度は伊弉諾神宮にて、新しい委員長たちから意気込みスピーチをおこなってもらいました。

去る1月8日(水)、伊弉諾神宮にて1月例会「志を以て実と成す」を開催させて頂きました。当日は例会前に2020年度一般社団法人淡路青年会議所の本年度のすべての事業、運動の成就をメンバー全員で祈願し、例会では本年度の方向性を藤川理事長からご挨拶頂き、そして各委員長から各委員会の役割、想いを伝えさせて頂いたことでメンバー全員で意識の共有を図ることができたと考えます。本年度がスタートし限られた時間ではありませんが、ひとつの淡路推進室としても残りの役割を全力で取り組んで

去る1月8日(水)、伊弉諾神宮にて1月例会「志を以て実と成す」を開催させて頂きました。当日は例会前に2020年度一般社団法人淡路青年会議所の本年度のすべての事業、運動の成就をメンバー全員で祈願し、例会では本年度の方向性を藤川理事長からご挨拶頂き、そして各委員長から各委員会の役割、想いを伝えさせて頂いたことでメンバー全員で意識の共有を図ることができたと考えます。本年度がスタートし限られた時間ではありませんが、ひとつの淡路推進室としても残りの役割を全力で取り組んで

去る1月8日(水)、伊弉諾神宮にて1月例会「志を以て実と成す」を開催させて頂きました。当日は例会前に2020年度一般社団法人淡路青年会議所の本年度のすべての事業、運動の成就をメンバー全員で祈願し、例会では本年度の方向性を藤川理事長からご挨拶頂き、そして各委員長から各委員会の役割、想いを伝えさせて頂いたことでメンバー全員で意識の共有を図ることができたと考えます。本年度がスタートし限られた時間ではありませんが、ひとつの淡路推進室としても残りの役割を全力で取り組んで

最後にありますが、準備から当日までご協力いただきました糸山副室長はじめとします、ひとつの淡路推進室のメンバーに感謝申し上げます。

ひとつの淡路推進室
室長 植野泰幸



2020
1/15

新年会

淡路青年会議所、2020年度新たに就任いたしました第58代理事長より、昨年度お世話になりました皆様方に新年のご挨拶とともに、新体制をお披露目すべく、たくさんのご来賓の方々や特別会員の皆様にお越し頂きました。

去る1月15日(水)、淡路夢泉景にて2020年度一般社団法人淡路青年会議所の新年会が執り行われました。

当日、お越し頂きました、各種関係者団体のご来賓の皆様をはじめ、特別会員の皆様、他LOMの皆様には心より感謝致しております。公私ともにご多忙の中、お越し頂きまして誠にありがとうございます。

新年会は本年度最初の対外へ向けた事業であり、年末より身の引き締まる思いで取り組んでまいり、メンバー全員で協力し合い、助けていただきながら当日を迎えることができ、

理事長登場からの所信表明、並びにスローガンであり「前へ」を華々しくお披露目することができました。また日頃よりお世話になっております皆様への昨年度体制のご協力への感謝、お礼を伝え、今年度体制への変わらぬご協力をお願いの機会と致しまして、メンバー一丸となって精一杯のおもてなしを滞りなく出来たのではないかと思っております。

我々メンバー一同、これから様々な困難にも臆することなく立ち向かい藤川理事長を支援、乗り越えていきたいと思っております。まだまだ至らぬ点が多々あるとは存じますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

最後に、ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございます。

最後に、ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございます。

会員交流委員会

委員長 濱 健一



2020
1/18

京都会議・LOMナイト・ブロックナイト

J Cの全国組織である(社)日本青年会議所の新年総会(京都会議)であり、毎年1月に開催されています。全国750の青年会議所から約2万人のメンバーが京都に集り、1年間の活動の礎となる会頭所信を聞き、多くのセミナー、会議に参加し、自己を高め視野を広げることが目的です。

LOMとは、LOCAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の中に属する各地青年会議所の意味です。LOMナイトとは、淡路JCというLOMの中で、京都会議に参加したメンバーたちを中心に懇親会がおこなわれます。かたやブロックとは、47都道府県ごとにブロック協議会が設置されており、主に都道府県単位のLOMの集合を指します。ブロックナイトは、兵庫ブロックのLOMが集まり開催される懇親会のことです。

会員拡大委員会

委員長 空山 智郎

去る1月18日(土)京都の地にて京都会議が行われました。

出向されているメンバーの方々のためLOMナイトを設置させて頂きました。

設営にあたっては、皆様の協力もあり無事終えることが出来ました。

ブロックナイトでは、藤川理事長の登壇もあり、出席頂きました皆様にも熱い想いを受け取って頂いたのではないかと思います。今後の活動に取り組んでいく原動力をしっかりと感じる夜となりました。

参加頂きましたメンバーの皆様ありがとうございました。



談 丸となり 力の発掘を。

経済再生担当大臣
全世代型社会保障改革担当大臣

西村 康稔



持続可能な、
全世代のバランスがとれた
社会保障制度を

藤川 大臣になられて全世代型の保障制度という取り組みがされているということですが、お互いに全世代で支え合っているところ、計画・予定されていると伺っております。今までは若い世代がお金を出して支えていくという方針から、それを上の世代にもお願いするというところで、現在の日本の人口構造として上の世代が多い中で、今まで出してなかった世代にも出していただくことで、様々なお声があがってくると思います。それについて今後どういう風にお考えでしょうか。

あちゃんがすぐ近くに住んでいらっしやるケースが多いので、自分たちの家族や親せきをお互いに支え合うという意味合いでの自助という形があると思います。そういった地域でのコミュニティもしっかりとあります。しかし最後は社会全体で高齢者や子供たちの保育などの保障を考えていこうという事を考えています。自助・共助・公助をバランスよく組み合わせ、現役世代の負担が高まってしまうように配慮しながら、考えていきたいと思っています。

(インタビューは2019年11月10日現在、後の2019年12月19日に全世代型社会保障検討会議中間報告(案)が発表された。)

経験こそ教育
淡路島にしかできない経験が
子どもを育てる

西村 正に時代が大きく変わってきていますし、少子高齢化が進んで、先行き不透明感はどこも大きくなってきている中で、まず淡路JCのみなさんには若い世代でぜひ色々切り拓いていただきたいとは思っています。そんな中で、ご指摘のように社会保障というのは高齢者のためのというのが、これまで中心とされてきた事実がありました。しかしこの2019年10月から始まった幼児教育、保育の無償化をするなど、全世代で、かつ持続可能な、その仕組みを次代へと繋いでいかないとはいけません。とにかくお金を投入して実行してしまうと、今度は現役世代や次の世代に負担がかかってしまうため、バランスをきちんと考えないとはいけません。高齢者の方々にも元気な方が非常に多く、まだまだ活躍できるという人に、支える側に回してもらえれば、社会保障としても良いことですし、これまで働いていなかったにも呼びかけ、支え手を増やしていくという事を計画していきたいと思っています。

藤川 私も子育て世代になるんですが、淡路島という視点で見ると、子ども達のはびのび育つという良い環境にあると思います。しかし学力や、教育環境という点では、進学などの問題も含めて青年会議所としても解決策を模索し考えていかないとと思っています。地方の教育環境についてどうお考えでしょうか。

淡路島の場合は、おじいちゃんおばあちゃんも、近くに住んでいらっしやるケースが多いので、自分たちの家族や親せきをお互いに支え合うという意味合いでの自助という形があると思います。そういった地域でのコミュニティもしっかりとあります。しかし最後は社会全体で高齢者や子供たちの保育などの保障を考えていこうという事を考えています。自助・共助・公助をバランスよく組み合わせ、現役世代の負担が高まってしまうように配慮しながら、考えていきたいと思っています。

西村 基本は公立学校できちんとした教育を受けられ、私学とは違うところで、一定の能力をしっかりと習得できる環境をつくらなければいけないと思っています。それについては、教員の研修を実施したり事務員の負担も軽減したりを考えなくてはなりません。スマホの普及により暗記しなければならぬ事項も減りました。もちろん基礎的なことは覚えておかなければなりません。試験の在り方も踏まえ、これまでの暗記するという手法ではない、考

える力や生きていく力を教えていくのも一つの自立てなのかと思えます。そういう意味では淡路島は、自然の中で生きていく環境があるのは素晴らしいことだと思います。私も幼いころは、よく淡路島に来ていました。その自然の中で遊びの中で学んできたことというのは非常にたくさんありました。だとか、これをやると痛いとか、これ以上やると怪我するとか、そういう経験して覚えること体得していく。生物にしても都会に比べると豊富に存在していて、自然の力が判断力などの生きていく力に繋がっていくのかと思えます。淡路の良さ、地方の良さを活かした教育というのも大事なことでないかと考えます。そういった中で基礎的な学力は、公立学校で養える環境が必要です。コンピュータや人口知能など新しい技術が次々と生まれてきているので、紙での試験をしなくても、それぞれの能力を日常生活からもわかるような時代になってきています。それを基に自宅で学習するなど、いろいろな仕組みを使いながら、個人個人に適応していきける学習スタイルが見いだされていくのだと思います。ただ、やはり学校の成績がすべてではないということも認識しておきたいですね。国会議員でも高卒の方もいますし、どこかの大学を卒業したかよりも、社会でどういった経験をしてきたかや、どういう姿勢で臨んでいるかが重要視されます。単に学力だけでなく社会で生きていくことを学ぶというのも教育として大事なことでと思います。親の仕事を手伝う、ボランティアやアルバイト、学生時代でも社会経験を積むことはできます。JCの方々も親御さんの家業を見て育った方が多く、比較的幼い頃から社会経験をされてきたのだと思

今こそ一 淡路島の魅力

淡路青年会議所
第五十八代理事長

藤川 龍介



ます。そういう皆様の経験を教育として活かしていきけるのではないかと思います。もちろん免許を習得した教員から学ぶことを忘れてはいけません。社会経験豊かな人が子ども達の前でそれを話すだけで、生きていく参考になっていくと思います。ノーベル賞を受賞された野依良治さんを例に出させていただくと、小学校6年生のときにお父さんに連れてってもらった化学の展示会で、ナイロンは石炭と水と空気から出来ているという話を聞き、化学への志を抱いたという話があります。遅かれ早かれそういう事があったのかもしれないませんが、少なくともその小学校の時の経験があったからこそ、将来の道を切り拓いたという事もあります。私も明石で政治家の演説を聞いて、政治家に憧れたという経験があります。何かのきっかけで、経験が意欲に結びつくことがあると思うので、そういった体験・経験ができる場があるのが良いと思います。そういう経験や体験ができる場を、JCでも引き続き提供していきたいと思えます。

**淡路島が「丸」になって、
相互にPRできれば、
圧倒的な来島者の増加が見込める。**

西村先生から見た淡路島の魅了というのは何かありますでしょうか。西村 たくさんあると思います。先日、宮中皇居前広場で天皇陛下御即位の祝賀会が開かれてその中で、いくつかの紹介VTRが流れました。天皇陛下が取り組んでこられた問題などを取り上げていたんですが、その動画の冒頭に淡路島の話が流れたんです。伊井野尊と伊井野尊が最初の島として作ったのが淡路島だという神話を紹介したんですが、その時に辺りの国会議員のみなさんから、「西村、西村」と声が挙がって大変うれしい思いをしたわけです。少し話がそれましたが、日本の国ができた最初が淡路島で、そういう神話に登場するほどの場所でもあります。それを皆さんがそれぞれ自覚していくことが大事だと思います。またこれからの令和という新時代に、新しいモデル、新しい国生みとして発信できたいと思います。農、林、水産、瓦、練香、食べ物、歴史、文化、交通要所、いろいろな魅力が溢れていて、発掘していったらいいと思います。自然体験もたくさんできると思えます。物の魅力だけではない、そういう体験型のもものは海外からインバウンドや、都会から小学生を数日間の受け入れるなどできます。そういう体験したことは、きっと一生忘れないと思います。また行きたいと思うでしょう。安倍総理も東京で育った方ですけども、小さい頃は夏休みの間、淡路島ではないですが、下関の島に預けられて過ごしたとおっしゃっていました。そういった経験が活きていると。

淡路島には、魅力がいっぱいあります。今は三市になってしまっていますが、一村一品という地域ごとに特色や財産があるはずなので、それを皆さんでぜひ、アイデアや知恵を結集して発掘していくのいいと思います。私にも応援できることが何かあればと思います。淡路JCの皆さんの功績として日本遺産認定も成し得たわけですから、今後ともぜひ期待しています。藤川 最後に、ご存知だと思いますが淡路JCは「淡路はひとつ」という理念で活動しているんですけれども、2020年度も一市運動を取り組んでいこうと思っています。さきほどお話にも出ました日本遺産の際にも淡路はひとつになって動けた経験があります。そういった行政に関わらず、もっと淡路がひとつになって動ける分野は何でしょうか。西村 それについては観光だと思えます。来島される方にとっては、入口があり出口があります。どこの市を目的に来るかはありますが、入口がどこであれ三市が連携して淡路島全体を紹介しながら魅力を発信していくことが大事だと思えます。三市それぞれに特徴はあります。日本遺産のときに淡路全体でストーリーを考えて実施されたように、観光でも同じように三市の特徴を協力して発信しないといけません。関空は1000万人が利用しているわけです。徳島の大步危峡にまで十数万人も外国人が訪れるわけですから、淡路島が連携してPRできれば、もっともっと来島者を増やせると思います。aweiちっていう自転車で一週コースがあるわけですし、交通移動手段や宿泊の連携とか、ツアー回遊だとか、そういう体制がとれば、そこから更に明石や徳島など淡路島の周りの市にも連携依頼ができる。観光こそひとつとって取り組むのいいと思います。ぜひ頑張ってください。藤川 ありがとうございます。

2020年度

入会案内

新入会員募集中

私たちと一緒に活動しませんか！ 明るい豊かな淡路島のために！

一般社団法人淡路青年会議所では現在会員を募集しております。

一般社団法人淡路青年会議所は、創立以来「淡路はひとつ」を基本理念に活動しております。本年度は前へ～共に学び、共に進め～をスローガンに掲げ、約60名の多種多様なメンバーで様々な活動を行っております。

青年会議所は、多種多様な人達が出会い、語り合い、

協同して事業を成し遂げる中で、自分自身を大きく成長できるチャンスに恵まれている「ひとつづくり」の場であります。

自分にはないものを持った仲間たちとの時間を通して、絆を深め、未来を見据えた意見交換を行いませんか。ぜひ淡路青年会議所に入会して、我々と共に活動しましょう！！

拡大委員会 委員長 空山 智郎

淡路青年会議所ってどんな団体？

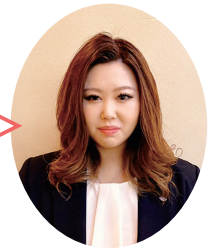
一般社団法人淡路青年会議所は、昭和37年、淡路島内の一市十町より「現代の淡路島、将来の淡路島の開発、発展に貢献する」という趣旨のもと、青年経営者40名が神戸青年会議所をスポンサーとし、全国237番目（兵庫県下11番目）の青年会議所として設立されました。

創立以来「淡路はひとつ」を基本理念として、それぞれの時代を先取りした、社会開発運動・地域活性化・青年育成事業などを行い、「明るい豊かな淡路島」の実現に向けた活動を続けております。また、淡路JCは次代の担い手としての責任を自覚する20歳から40歳までの青年で構成されている団体です。同じ理想と使命感を持つ青年が相集い力を合わせることで、友情を育み、互いに影響し合い、若狭が持つ無限の可能性を引き出しあっています。日々の活動や研修事業を通して社会・地域のリーダーとしての指導者能力を鍛えることも行います。

現役&新入会員からの声！
“きっかけ&良かったこと”

私の尊敬している方がメンバーだったため、JCの存在は知っていました。お誘いをいただき、入会を決意してから不安もありましたが、メンバーの皆様の熱い心や、丁寧で真剣な姿を目にし、入会させてもらったことを本当に感謝しております。JCでしか経験できない貴重な体験をもとに、人生の勉強をし、身につけていきたいと思っています。

28歳 / 女性 / 飲食店 / 入会1年目 / 濱田直美



入会についてのよくあるご質問

- Q. 経営者ではないのですが入会できますか？
A. 経営者だけを対象とする団体ではありません。まちづくりやひとつづくりといったJC活動に関心のある方に入会いただいています。
- Q. JC活動は女性でもできますか？
A. 性別を問わずご入会いただけます。淡路青年会議所では現在3名の女性会員が在籍しています。
- Q. 仕事が忙しいのですが、続けることはできるのでしょうか？
A. 青年会議所の中でも効率の良い時間の使い方を学び、仕事にも反映させることができるようになっていきます。現役メンバーは仕事とJC活動をしっかり両立させています。



岸本有広です。土地家屋調査士事務所をしております。表示登記を専門に代理申請手続きをしております。

JCには、先輩にお誘いいただき入会を決めました。JCメンバーとの繋がりを大切に活動して参りたいと思います。

36歳 / 男性 / 岸本事務所 / 土業 / 1年目 / 岸本有広

入会資格

- 年齢は20歳～40歳までであること。
- 一般社団法人淡路青年会議所の目的に賛同されること。
- 淡路島に住居または勤務先を有する、もしくはいずれかに関係性があること。
- 一般社団法人淡路青年会議所資格規定に基づく選考に合格されること。

現在会員数

60名（女性3名）

女性会員も活躍中！！

入会のご案内



淡路JCの活動

